



246

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年1月19日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

反戦エスペランチスト、長谷川テルの生涯

19日(日)＝1、3面

迫る



戦時中、中国大陆に渡り、日本の軍国主義をラジオ放送で批判した人物がいました。長谷川テルという女性です。

テルは世界平和を求めて作られた共通言語「エスペラント語」を学び、そこで出会った中国人留学生と結婚して中国を第2の故郷とします。上海事変などで日本軍の横行を目の当たりして、ラジオ放送で日本兵に向かって「誤って血を流さないで」と訴えます。

日本国内では売国奴扱いされますが、

テルはへこたれず、さらには女性解放も強調しました。戦後間もなく34歳で亡くなりますが、テルの遺児に加え、日本の研究者や平和活動家がテルの意思を受け止め、顕彰碑＝写真＝の建設や著作集の編さんに乗り出しています。

ウクライナやパレスチナなどをみれば、平和とはほど遠い世界。いま、テルの生涯に光を当てるのは大きな意味があるでしょう。鵜塚健・専門記者の執筆です。

論点

広がるダイナミックプライシング

22日(水)＝オピニオン面

同じ商品なのに、需要の変動や時間帯などによって値段が変わるダイナミックプライシング（変動価格制）が広がってきました。

かねてホテルや航空券で活用されてきましたが、プロ野球などのイベント

チケットに広がり、アミューズメント施設や人気ラーメン店では、行列に並ばずに済む有料ファストパスも登場しています。多様化する価格決定は、ビジネスや消費行動をどう変えるのでしょうか。



ダイナミックプライシングを取り入れている福岡ソフトバンクホークスの試合を観戦するファン

1959年に開発された気象庁の電磁地震計Ⅱ国立科学博物館提供



特集 ワイド

再考・宮沢喜一元首相

20日(月)＝夕刊2面



元首相の田中角栄さん、石橋湛山さんは、亡くなってかなりたつ今も人気があります。では、宮沢喜一さん＝写真＝はどうでしょう。ハト派の大物にして保守リベラリスト。自民一党支

配の「55年体制」の幕引き役でもありました。昨年来、記念館がオープンしたり伝記が刊行されたりと、ちょくちょく話題になる宮沢さんです。その足跡を改めてたどってみました。

地震計の仕組みと進化

19日(日)＝総合面

世界有数の「地震国」である日本。地震が起きると、全国に張り巡らされた観測網が揺れの様子をいち早く捉え、震度や震源、マグニチュードといった情報が速報されます。でも一体、どう

のようにして揺れを記録しているのでしょうか。明治時代から1995年の阪神大震災を経て現在まで、観測機器の変遷を通じて、その仕組みを見ていきます。

竹橋の窓辺から

編集後記

アサド政権が崩壊したシリアのいまを伝える「シリア独裁政権崩壊の現場から」中東情勢の現在地を探る「のオンラインイベント」を、28日午後7時に開催します。フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをお招きして、政権崩壊直後に現地入りした毎日新聞カイロ支局長らが登壇し、中東情勢の解説やシリアの今後を考えます。QRコードからぜひご参加ください。(坂井友子)



毎日新聞